

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

医学科、保健学科それぞれの教育目標を踏まえ、各学科各専攻が定める教育成果を獲得すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した者に学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

医学科、保健学科それぞれの目的を達成し、各学科各専攻が定めるディプロマ・ポリシーで求める学修成果を修得するために、以下に挙げる体系的、段階性、個別化（進路への対応）をもとに教育カリキュラムを編成しています。

体系的：各分野の学問体系に従った教育課程を編成しています。

段階性：教養教育及び基礎的な科目により幅広い知識を習得し、学年進行に沿って、応用的、発展的、実務的な科目を習得できるよう修学プログラムを編成しています。

個別化（進路への対応）：医療者、研究者、教育者としての将来の各進路に則した科目履修ができるよう、編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育カリキュラムにおいて、講義・演習・実験・実習等の様々方法・形態により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとします。

③学修成果評価の方針

医学科及び保健学科それぞれのカリキュラム・ポリシーに定める学修成果評価の方針に従い、医学科及び保健学科それぞれの教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート課題、演習・実習等への積極的な参加等の評価方法・基準により評価します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

熊本大学医学部では、医学・保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。

◆入学者選抜の基本方針

医学科、保健学科それぞれのアドミッション・ポリシーに記載する入学者選抜の基本方針の定めるところによります。

熊本大学医学部医学科の使命：

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を生涯にわたって追及・達成するとともに、変化する時代に対応できる能力を涵養し、地域にも世界にも貢献できる医師・医学者を育てる。

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、「熊本大学医学部医学科学修成果」を定めています。教養教育で身に付けた幅広い分野の知識を素地とし、別に定める熊本大学学士課程教育修了時に獲得が期待される「学修成果」に加え、7つのコア学修成果（大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療）とそれぞれの下位に属する総計 50 の学修成果（小項目）を獲得するために編成された教育課程を学修し所定の単位を取得、これら学修成果を獲得した者に学士（医学）の学位を授与します。

熊本大学 学士課程教育に期待される学修成果

豊かな教養

教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身に付け、異なる思考様式を理解し、知を高めていく主体的な学習態度が備わっている。

確かな専門性

自らの専門分野の理論・概念や方法論に関する基本的知識を身に付け、当該分野の情報・データを活用し、問題解決のために応用できる。

創造的な知性

自分で課題を発見し、解決のために必要な調査・研究及び実践に個人やチームで取り組み、その成果を論理的に発表・討議する能力を持っている。

社会的な実践力

社会に対する幅広い関心を持ち、人々や社会との関わりの中で自分を見つめ、市民や職業人として必要なコミュニケーション能力、倫理観を身に付け、将来進むべき道を探索し、社会に貢献する意欲を持っている。

グローバルな視野

国際社会に積極的に参加するために必要な外国語運用能力と異なる価値観や文化に対する理解力を持ち、国際感覚を身に付けている。

情報通信技術の活用力

社会生活に求められる情報通信技術（ICT）を活用するために必要な知識・技能・倫理を身に付けている。

汎用的な知力

あらゆる専門分野や社会生活の基盤として求められる読解力、文章表現力、数的処理能力を身に付けている。

熊本大学医学部医学科学修成果

学修成果

A. 豊かな人間性

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、社会人として相応しい一般常識と教養を身につけ、病める人及びその家族の気持ちを理解した対応がとれる。

1. 社会通念に基づいた常識ある行動で、法規及び規則を遵守する。
2. 病める人及びその家族を尊重し、誠実、利他的、共感的に対応できる。
3. 医学、医療に影響を及ぼす文化的、社会的要因について理解し、説明できる。

B. 基本的診療能力

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、医師となるにふさわしい、統合された知識、技能、態度に基づき、全身を総合的に診療するための実践的能力を有する。幅広い疾患の診断論及び治療論を理解し、一部を実践できる。

【基本的知識】

1. 人の正常な構造と機能、発生およびその経年変化について説明できる。
2. 疾患の原因、病態、自然経過、危険因子と予防方法について説明できる。
3. 治療の原理（薬物治療、非外科的侵襲治療、放射線治療、外科治療など）について説明できる。
4. 疫学、人口統計、環境、行動科学について説明できる。
5. 症状から、診断に至るプロセスを網羅的及び系統的に説明できる。

【医療の実践】

6. 心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を、患者に配慮しつつ正確に聴取できる。
7. 基本的診察手技および検査手技を適切に実施できる。
8. 患者の様々な情報を統合しプロブレムリストを作成し、的確な診断を行い、適切な検査計画・治療計画を立案することができる。
9. 診療の記録を診療録に適切に記載することができる。
10. 患者教育の重要性を理解し実践できる。

C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、医師あるいは医学者としてのキャリアを開始し、生涯にわたって学修を継続することができる。高い倫理観をもって、生命の尊厳と人の命と健康を守る医師・医学者としての職責を深く認識している。

【自己研鑽】

1. 自らの現状を適切に評価して、目標を設定できる。
2. 自らの目標を達成するための方法を考え、知識と技能を獲得することができる。

【プロフェッショナリズム】

3. 患者にとって最善の治療を選択できる。
4. 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者に向き合うことができる。
5. 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて行動し、医療に関連した規範を遵守する。
6. 情報を適切に管理・利用することができる。

7. 自らのキャリアをデザインし、達成に向けた継続的な学修の重要性を理解できる。

D. チーム医療と信頼される医療の実践

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、医療は患者を中心におき、多職種の医療構成員よりなるチームで実践されることを理解する。患者やその家族、チーム医療構成員などと良好な信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。患者に信頼されるために医療安全やインフォームドコンセントが重要であることを理解する。

【チーム医療】

1. 医療職種の専門性を理解し、チーム医療における医師の役割を説明できる。
2. 医師同士や他職種との信頼関係を築くために、コミュニケーションが重要であることを理解し実践できる。

【患者に信頼される医療】

3. 医療を実施する上でコミュニケーションを通じて良好な患者・家族-医師関係を構築できる。
4. インフォームドコンセントの重要性を理解し、説明内容を準備できる。
5. 医療安全と危機管理について理解し実践できる。

E. 医科学研究

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、旺盛な科学的探究心を有し、医学研究の基本を理解し、既存あるいは新たな研究成果を論理的、客観的に評価できる。また、現代医学における問題抽出とそれを解決するための研究計画立案を倫理原則に則って行える。

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解し実践できる。
2. 医学・医療の研究・開発が社会に貢献することを理解する。
3. 基礎および臨床研究に関する倫理的事項を理解する。

F. 国際的視野

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、社会に対する幅広い視野を有し、国際社会における医療及び保健の現状を理解する。

1. 国際社会における医学・医療及び保健の現状を理解する。
2. 国際社会に貢献できる語学力および対応力を有する。

G. 地域医療

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、地域医療の現状と問題点を認識している。地域住民の健康の維持、増進に貢献するため、地域の保健・医療・福祉・介護及び行政と連携協力できる知識、技能、態度を有する。

1. 医療、福祉、介護における社会保障制度について理解し、説明できる。
2. 地域の健康・福祉に関する問題と解決策について理解し、それに関する知識を習得する。
3. 医療機関ごとの連携だけに留まらず、福祉・介護に関する機関、及び行政における多分野・専門・職種間との連携の重要性を理解する。
4. 熊本県固有の事例を通して、熊本県の地域医療を理解する。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、医学科学生が卒業する際に獲得しているべき能力を明文化した「熊本大学医学部医学科学修成果」を定めています。これは、7つのコア学修成果（大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療）と、それぞれの下位に属する総計 50 の学修成果（小項目）からなります。医学科ではこれら学修成果を学年進行に応じて段階的に学修し、卒業時にはすべての学修成果を獲得できるようにカリキュラムを編成しています。

体系性：学修成果を獲得するため、各分野の学問体系に従った教育課程をバランスよく編成しています。

段階性：教養教育では幅広い分野を学び、学年進行に従って段階的に学修成果を獲得できるよう編成しています。

個別化（進路への対応）：学修成果を獲得することにより、臨床医だけでなく医学研究者や医療行政担当者まで、様々な進路に対応できるようになっています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

講義：基礎医学、社会医学、臨床医学の基本的な知識から最先端の話題まで、幅広い知識が身につくよう丁寧に説明するとともに、少人数グループワーク形式、ICT の活用など、様々な教育方略も取り入れ、学習意欲を高めます。

実習：基礎医学・社会医学の理解と実践、さらには最先端の研究を体験するための実習を実施します。

臨床実習：小人数グループに分かれ、チーム医療の一員として診療に参加する診療参加型臨床実習を実施します。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 等の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の獲得の評価は、筆記試験だけでなく、実技試験や観察評価など様々な方法で行います。その方法については、各開講科目のシラバスにおいて「評価方法・基準」で示します。

入学受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学修を継続できる人
7. 医学と医療以外の幅広い分野にも興味を持ち、継続的に教養を深める意欲に溢れる人

○医学科への入学までに身につけてほしいこと

受験生の多様性に合わせて、大学入学共通テスト及び個別学力検査では物理・化学・生物から2科目選択となっていますが、入学後、医学科の様々な専門科目の基礎として、高等学校で学ぶ「生物・生物基礎」は重要な科目です。生物学の教科書はバランス良く構成されており、最新の生命現象についても平易に解説されていますので、幅広く学んでおく必要があります。

また、教科の基礎学力だけでなく、論理的な文章を書くための国語力、グローバルでグローバルな医療の世界での共有言語である英語の素養を十分に身につけ、国際的な広い視野とコミュニケーション能力を備えていることも重要です。

◆入学者選抜の基本方針

- ◎ 学校推薦型選抜Ⅱでは、「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

- ◎ 一般選抜では、「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

- ◎ 私費外国人留学生選抜では、「知識・技能」については、日本留学試験を利用してこれまでの教育課程の教科・科目及び日本語に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

○ 保健学科全体

◆ 人材育成の目的・学位授与の方針

保健学科は、学士課程において、「命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観および確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に即応して、チーム医療に対応できる医療人、ならびに社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人の育成」を目的としています。

このことを踏まえ、教養教育にて修得する幅広い分野の知識を素地とし、各専攻において修得する分野の特性に応じた知識・能力に基づいて各専攻が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、医療従事者、教育・研究者として必要とする専門分野において所定の単位と資質を取得した者に学位を授与します。

○ 看護学専攻

看護学専攻は、学士課程において、以下の医療人の育成を目的としています。

1. 豊かな教養ある人間性と倫理観

- ・ 看護専門職者として、命の尊さを深く認識し、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観を身に付けている

2. 高度な専門性と探求心

- ・ 看護学で求められる確かな専門知識と技術を基盤にして、医療技術の進歩や情報化に即応するための情報分析力・判断力を身に付けている
- ・ 看護専門職者として、協調性をもってチーム医療に対応できる
- ・ 学習意欲と科学的探求心を持ち、課題の発見・解決に向けて主体的に学びを深めることができる

3. 地域に根差した保健・医療・福祉の発展に寄与できる力

- ・ 社会や保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざした視点で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことができる

4. 援助関係を構築できるコミュニケーション力

- ・ 看護専門職者として、人々の多様な思考や価値観を理解し尊重することができる
- ・ 他者の気持ちを尊重しながら、自分の意見を誠実に対等に表現し、援助関係を構築できる

5. 多様性の理解と国際的な視野

- ・ 言語や文化の違いを理解し、多様な背景を持つ人々の生活を理解できる
- ・ 国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことができる

○ 放射線技術科学専攻

放射線技術科学専攻は、学士課程において、以下の医療人の育成を目的としています。

1. 高度な専門的知識と安全管理能力

- ・ 医療従事者としての放射線技師の役割を理解し、高度に専門的な検査機器の知識と技術だけでなく、安全管理に係わる知識と責任を兼ね備えている
- ・ 革新を続ける医療技術に対応できる、国際的感覚を備え自己研鑽に常に取り組むことができる

2. 研究・開発に関する能力

- ・ 医療機器を用いた研究・開発に取り組める能力だけでなく、倫理観を兼ね備えている

3. 医療チームの一員としての能力

- ・ 医療従事者の1人として、チームを意識した活動を志せる

○ 検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、学士課程において、以下の医療人の育成を目的としています。

1. 命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観、確かな専門知識と技術を基礎に医療技術の進歩や情報化に即応してチーム医療に対応できる
2. 社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことができる

学修成果

豊かな教養

○ 看護学専攻

- ・ 人間の成長発達や人間の心理学的現象について必要な知識を説明できる。
- ・ 社会学や哲学を通し、人と環境との相互作用に関する知識を説明できる。
- ・ 自分の課題や関心において、自発的に学習することができる。

○ 放射線技術科学専攻

- ・ 教養のある社会人として、医薬学だけでなく人文・社会・理工学に造詣がある。

○ 検査技術科学専攻

- ・ 社会の一員として幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と広い社会的視野を持つ。

確かな専門性

○ 看護学専攻

- ・ 看護学のメタパラダイムである人間、環境、健康・保健、看護に関する理論を説明できる。
- ・ からだやこころの構造・機能、疾病に関する病態生理が説明できる。
- ・ 看護実践において必要とされる知識と技術を説明、実施することができる。

○ 放射線技術科学専攻

- ・ 放射線技術科学における診療機器類の原理を理解し、安全に運用ができる。
- ・ 放射線技術科学における画像検査技術と放射線治療技術を修得し、説明できる。
- ・ 法規制にしたがった放射線の安全な取扱いと管理ができる。
- ・ 画像診断の過程を理解し、疾病との関連を論理的に説明できる。

○ 検査技術科学専攻

- ・ 臨床検査技術科学の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・ 病気の診断治療や健康状態の把握に必要な医学的検査法に習熟している。

創造的な知性

○ 看護学専攻

- ・ 看護学における課題を設定し、解決することができる。
- ・ 関心領域や社会的問題の事象に関し、討議することができる。

○ 放射線技術科学専攻

- ・ 業務の中での課題を的確に見だし、チームの一員として課題の改善や提案を自ら行える。

○ 検査技術科学専攻

- ・ 臨床検査技術科学の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。
- ・ 課題に対する研究方法、解析技術等を理解し、柔軟な発想と論理的思考から仮説を検証できる。

社会的な実践力

○ 看護学専攻

- ・ 人との間で相互作用をし、相手のおかれている状況を理解し、説明できる。
- ・ 看護以外の社会における現象に関心をもち、一市民として参加することができる。

○ 放射線技術科学専攻

- ・ 高い倫理観を持ち合わせ、社会とチームが求めている放射線技師の役割を察知して実践できる。

○ 検査技術科学専攻

- ・ 文化・社会に関する一般的な理解と関心を持ち、医療従事者としての職業観、倫理観を培うことができる。

グローバルな視野

○ 看護学専攻

- ・ 国際的に必要とされる英語を用いて看護学に関する現象を話すことができる。
- ・ 外国語運用能力を用い国際的な視野で看護学を構築するためのコミュニケーションが実施できる。

○ 放射線技術科学専攻

- ・ 病院内外での、放射線技師の立ち位置を理解し、課題があれば率先して取り組める。
- ・ 国際的な課題を他言語で取り組む能力を持つ。
- ・ 国際的に活躍する実践力を持つ。

○ 検査技術科学専攻

- ・ 自然・生命・医学・医療に関する基本的な理解と広い視野を持っている。
- ・ 英語の文献を読解することができるようになるとともに、国際的視野で情報の収集・分析を行うことができる。

情報通信技術の活用力

○ 看護学専攻

- ・ 課題に応じて情報処理技術を駆使し、目的に対する情報分析を行うことができる。

○ 放射線技術科学専攻

- ・ 医療データへの倫理的配慮を持ちながら、常に新しい情報通信技術への理解と学習を続けられる。

○ 検査技術科学専攻

- ・ IT を利用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。

汎用的な知力

○ 看護学専攻

- ・ 他分野の専門家と情報を交換し、自分の立場で意見を述べることができる。
- ・ 自分の関心領域に関する文献、図書を検討し、理解し、要約して人に伝えることができる。

○ 放射線技術科学専攻

- ・ 他職種と連携を行うために必要な、平易な言葉での情報伝達能力と他者への理解能力を兼ね備える。

○ 検査技術科学専攻

- ・ 明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、情報や意見を伝えることができる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

○ 保健学科全体

保健学科は、学士課程の目的である「命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観および確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に即応して、チーム医療に対応できる医療人、ならびに社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人の育成」を達成し、ディプロマ・ポリシーで求める学修成果を修得するために、以下の方針に基づき教育カリキュラムを編成しています。

1. 体系性

- ・ 各分野の学問体系を基盤とし、国家資格取得に必要とする科目群をバランスよく学修できるように教育課程を編成しています。

2. 段階性

- ・ 教養教育及び基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用的・発展的ならびに実務的な科目を学習できるよう編成しています。

3. 個別化（進路への対応）

- ・ 各年次に各専攻分野を構成する専門的な授業科目を置き、将来の進路に則した科目履修を保証するように編成しています。

○ 看護学専攻

1. 体系性

- ・ 看護学分野の学問体系を基盤とし、看護師・保健師・助産師の国家資格取得に必要とする科目群を系統的に学修できるように教育課程を編成しています。

2. 段階性

- ・ 教養教育において履修を必須とする「人文・社会」及び「自然・生命」学系を始めとした基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用的・発展的ならびに実務的な科目を学修できるように編成しています。

3. 個別化（進路への対応）

- ・ 各年次に看護学専攻を構成する専門的な授業科目を置き、将来の進路（看護師・保健師・助産師）に則した科目履修を保証するように編成しています。

○ 放射線技術科学専攻

1. 体系性

- ・ 科目の学修成果を修得できるように、各分野の教育課程をバランス良く編成しています。

2. 段階性

- ・ 教養教育において履修を必須とする「人文・社会」学系を始めとした基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って、各分野に基礎と演習、実習を対にしたカリキュラムを組み、段階を経た効果的な学修を可能にしています。

3. 個別化（進路への対応）

- ・ 臨床への進路だけでなく、医療技術に根ざした科学研究を行えるように、バラエティーに富む研究テーマを用意し、産業界への進路も視野に入れた対応を行っています。

○ 検査技術科学専攻

1. 体系性

- ・ 検査技術科学の学問体系を基盤とし、臨床検査技師の国家資格取得に必要とする科目群をバランスよく学修できるように教育課程を編成しています。

2. 段階性

- ・ 教養教育において履修を必須とする「人文・社会」学系を始めとした基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用・発展的ならびに実務的な科目を学修できるよう編成しています。

3. 個別化（進路への対応）

- ・ 各年次に人体構造学や病理検査学、血液検査学、臨床化学、遺伝子検査学、免疫検査学、病原生物学、環境衛生・公衆衛生学、生理機能検査学、画像検査学、検査情報・機器管理学などの専門的な授業科目を置き、将来の進路に則した科目履修を保証するように編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育カリキュラムにおいては、講義・演習・実験・実習等の様々方法・形態により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとします。

③学修成果評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される教育課程の取得単位数、GPA等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート課題、演習・実習等への積極的な参加等の評価方法・基準により評価します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

○ 保健学科全体

保健学（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）の発展を担い、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために、保健学科では保健学科の求める学生像を踏まえ、次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師、保健師、助産師）並びに診療放射線技師、臨床検査技師という職業に魅力を感じ、専門分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍する意欲と熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち、多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人で、医療における高い倫理観とマナーを育んでいける資質を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で、国語、外国語とともに2科目以上の理科（生物、化学、物理）において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動、ボランティア活動等の経験を有し、様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び、実験や臨地実習においても真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し、新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. 協調性に富み、チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き、専門分野における役割・機能の責務を果たし、指導的役割を担える資質を有する人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え、学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め、指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

○ 看護学専攻

看護学の発展を担い、広く社会に貢献できる資質の高い看護職者（看護師、保健師、助産師）・研究者・教育者を育成するために、看護学専攻では次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師、保健師、助産師）に魅力を感じ、看護学分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍する意欲と熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち、良好なコミュニケーションを築きあげることで、多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人で、医療における高い倫理観とマナーを育んでいける資質を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で、国語、数学、外国語において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動、ボランティア活動等の経験を有し、様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 看護学領域の知識や技術に興味・関心を持って学び、臨地実習においても、真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し、新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. 協調性に富み、チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き、看護の専門家としての責務を果たし、指導的役割を担える資質を有する人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え、学部卒業後は看護師、保健師、助産師として、さらには、看護領域における教育者・研究者としての能力を高め、指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

○ 放射線技術科学専攻

放射線技術科学の発展を担い、広く社会に貢献できる資質の高い診療放射線技師・研究者・教育者を育成するために、放射線技術科学専攻では次のような人を求めています。

1. 安全に機器を取り扱う能力とノウハウを常に涵養する意識を持つ人
2. 革新的な技術革新導入に果敢に取り組める、国際感覚に優れた人
3. 医療機器を用いた研究に興味を持ち、倫理観の高く取り組む強い意思がある人
4. 放射線技師の立ち位置を俯瞰的に観察し、チームのために貢献できる人
5. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で、数学、外国語とともに少なくとも理科1科目（生物、化学、物理）において優れた学力を有する人

○ 検査技術科学専攻

検査技術科学の発展を担い、広く社会に貢献できる資質の高い臨床検査技師・研究者・教育者を育成するために、検査技術科学専攻では次のような人を求めています。

1. 臨床検査技師という職業に魅力を感じ、臨床検査学分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍する意欲と熱意のある人
2. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で、数学、外国語とともに理科2科目（生物、化学、物理）において優れた学力を有する人
3. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動、ボランティア活動等の経験を有し、様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
4. 検査技術科学分野の知識や技術に興味・関心を持って学び、新しい分野にも積極的に取り組むフロンティア精神を持ち、学内外での学習の場において真摯な態度で自らの課題を設定し、問題を解決できる能力を有する人

5. 協調性に富み、チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き、臨床検査の専門家としての責務を果たし、指導的役割を担える資質を有する人
6. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え、学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め、指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

◆入学者選抜の基本方針

○保健学科全体

医学部保健学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、知識・技能（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては数学・理科科目を主とした論理的思考力や科学的探究心、英語科目による読解・表現のための外国語能力、国語科目を主とした理解力及び構成的論述能力、医療従事者に必要な倫理観や協調性、社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

1. 一般選抜（前期日程）では、基礎学力に加え、数学・理科科目を主とした論理的思考能力や科学的探求心、英語科目による読解・表現のための外国語能力、国語能力を主とした理解力及び構成的論述能力を主体として、評価・選抜を行います。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により評価します。そのため、大学入学共通テスト、個別学力検査及び面接を課し、書面審査では、調査書を評価します。
2. 学校推薦型選抜Ⅱでは、基礎学力に加え、保健学科を志望した動機、科学的・知的探究心、柔軟な思考力、保健学に対する熱意と適性、高等学校における活動状況、ボランティア等の社会貢献、その他学習意欲を主体として、評価・選抜を行います。そのため、大学入学共通テスト及び面接を課し、書面審査では、調査書を評価します。
3. 社会人選抜では、英語科目による読解・表現のための基礎的外国語能力、小論文による理解力、基礎的学力、全体的構成力、表現力、面接による保健学科を志望した動機、医療・看護全般に関する興味と学習意欲、ボランティア等の社会貢献を主体として、評価・選抜を行います。そのため、英語試験、小論文試験及び面接を課し、書面審査では、調査書を評価します。
4. 私費外国人留学生選抜では、基礎学力と日本語能力に加え、数学・理科科目を主とした論理的思考能力や科学的探求心、英語科目による読解・表現のための外国語能力、国語科目を主とした理解力及び構成的論述能力、さらに面接による志望動機、保健学に対する熱意と適性、学習意欲を主体として、評価・選抜を行います。そのため、日本留学試験、個別学力検査及び面接を課します。
5. 総合型選抜（海外在住者対象）では、意欲、表現力、日本語能力等を第1次選抜で評価するとともに、生物や化学に関する大学入試レベルの知識・学力、志望動機、保健学に関する興味、表現力や積極性・適性等を第2次選抜で評価します。そのため、書類審査、口述審査及び面接を課します。

○看護学専攻

看護学専攻の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては数学科目を主とした論理的思考力や科学的探究心、英語科目による読解・表現のための外国語能力、医療従事者に必要な倫理観や協調性、社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

1. 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」について、大学入学共通テスト及び個別学力検査により高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を判定します。「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」は調査書により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜

します。

2. 学校推薦型選抜Ⅱでは、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。
3. 社会人選抜では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」については、英語試験により判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、小論文、面接及び調査書により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。
4. 私費外国人留学生選抜では、日本語留学試験を課し、大学で必要とする日本語力及び「知識・技能（基礎学力）」を判定します。「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」については、個別学力検査により判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。
5. 総合型選抜（海外在住者対象）では、第1次選抜の書面審査で「知識・技能（基礎学力）」及び「思考力・判断力・表現力」を判定します。また、第2次選抜の面接により「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

○放射線技術科学専攻

放射線技術科学専攻の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては数学・理科学科目を主とした論理的思考力や科学的探究心、英語科目による読解・表現のための外国語能力、医療従事者に必要な倫理観や協調性、社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

1. 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」について、大学入学共通テスト及び個別学力検査により高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を判定します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」は調査書により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。
2. 学校推薦型選抜Ⅱでは、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。
3. 私費外国人留学生選抜では、日本語留学試験を課し、大学で必要とする日本語力及び「知識・技能（基礎学力）」を判定します。「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」については、個別学力検査により判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

○検査技術科学専攻

検査技術科学専攻の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては数学・理科学科目を主とした論理的思考力や科学的探究心、英語科目による読解・表現のための外国語能力、医療従事者に必要な倫理観や協調性、社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

1. 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」について、大学入学共通テスト及び個別学力検査により高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書

及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

2. 学校推薦型選抜Ⅱでは、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。
3. 私費外国人留学生選抜では、日本語留学試験を課し、大学で必要とする日本語力及び「知識・技能（基礎学力）」を判定します。「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」については、個別学力検査により判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。
4. 総合型選抜（海外在住者対象）では、第1次選抜の書類審査で「知識・技能（基礎学力）」及び「思考力・判断力・表現力」を判定します。また、第2次選抜の口述審査及び面接により、「知識・技能（基礎学力）」、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。